

第5学年 社会科学学習指導案

1 単元名 「寒い土地の暮らし —北海道—」

2 単元について

本単元は、小学校学習指導要領社会編 第5学年の内容(1)「我が国の国土の様子と国民生活について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」を受けて設定した。次の事項とは主に以下の2点である。①人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。②地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することである。本単元の学習を通して、寒い土地の自然環境とそれに適応した人々の生活について理解を深めることをねらいとしている。具体的には、北海道の自然環境に着目し、自然条件に適応した生活の工夫や産業の様子について理解を深めることである。

本学級の子供たちは、これまで第5学年「国土の気候の特色」の単元において、日本の気候には、四季の変化が見られることや、南北の位置、地形や季節風などによる地域差が大きいこと、梅雨や台風などが、人々の暮らしに大きく関係していることについて学習した。本単元では、千葉市とは気候の特色が大きく異なる北海道の人々の暮らしに焦点を当てる。北海道の人々が冬の寒さや雪から暮らしを守る工夫をし、夏の涼しさや雪を生かした観光や広大な土地を使った農業などを行うなど、北海道の自然条件を生かした暮らしをしていることを学習する。その後、第5学年「暮らしを支える食料生産」の単元では、気候や地形などの自然条件を生かしたり携わる人々の工夫や努力が行われたりしながら日本の食料生産が営まれており、安定・安心して国民の食料が保たれていることを学習する。第5学年の学習全体を通して、日本の国土の地理的環境の特色と産業について、国民生活との関連を踏まえて理解し、我が国の国土に対する愛情を養うことを目指したい。

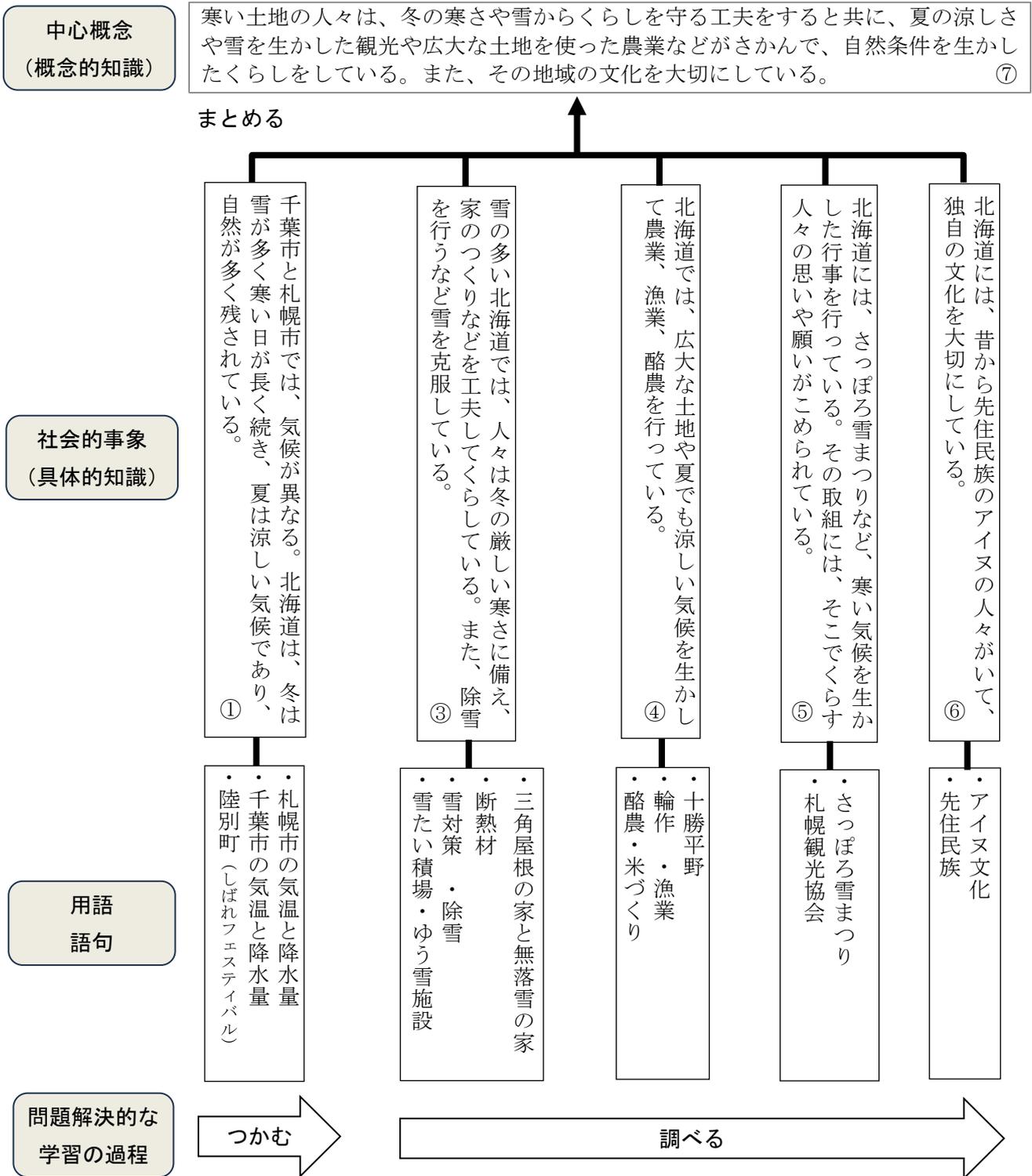
「日本の気候変動 2025」(文部科学省及び気象庁, 2025)では、地球温暖化や気候変動など、気候に関わる問題が深刻化しており、将来予測として年平均気温や日本近海平均海面水温が上昇すると予測されている。このような状況の中で、自然環境と人々の生活とのつながりを理解することは、気候条件に適応した生活や持続可能な社会づくりにつながる重要な資質・能力となるだろう。例えば、寒い地域では、住宅構造や冬の交通手段など、気候に適応した様々な工夫がある。そうした地域の人々の工夫や努力を学ぶことで、自然に向き合いながら生活することの大切さを実感することが期待される。

本校が位置する地域の実態として、日常の中で気候と生活の実感する機会が限られている。例えば、暖房設備が整っていたり、雪が積もるような体験がほとんどなかったりするため、寒冷地にくらす人々の生活の工夫や自然環境との関わりを自分事として捉えるのが難しい。

上記の本単元のねらいと子供の実態を考慮して、本単元では、地図帳や写真、映像といった視覚的・具体的な資料を活用し、子供たちの興味・関心を高め、日本の自然環境と人々の生活との結び付きについて理解を深めることを目指す。まず「つかむ」過程では、千葉市と札幌市の冬の様子を写真で提示する。また、両地域の気温や降水量を示したグラフを用いて、生活環境の違いを明らかにし、子供たちがその違いに気付けるようにする。加えて、日本一寒い町として知られる北海道陸別町の「しばれフェスティバル」の写真を提示し、「どうやってこんなに寒い場所でくらしているのだろう」「寒い地域ではどのような工夫をして生活しているのだろう」といった問いを子供たちがも

つように働きかける。この問いに対して、子供たち自身の生活経験やこれまでの学習を基に、寒冷地での暮らしについて予想を立てさせる。その予想を「生活」「産業」「行事」「文化」といった観点に整理し、学習の見通しをもたせる。「調べる」過程では、北海道にくらす人々の生活の様子について、具体的な資料や携わる人の話から理解を深めていく。北海道の住宅の写真からは寒さに対応する建物の工夫を読み取り、除雪作業の写真からは積雪に対する取組に気付かせる。さらに、漁業・酪農・農業などに関する写真や統計データ、農業従事者の話などを基に、北海道で盛んな産業とその背景にある自然環境の特色を理解させていく。また、「さっぽろ雪まつり」の資料を活用して、雪を活かした行事や観光の工夫について調べさせると共に、札幌観光協会のOさんへのインタビュー活動を通して、観光資源としての雪の活用や、行事に取り組む思いについて気付かせる。これらの学習活動では、子供たちは気候と人々の生活との関係に目を向ける「社会的事象の見方・考え方」を働かせながら、学びを深めていく。本單元における社会的事象の見方・考え方とは、寒い土地の自然環境と人々の生活との関わりに着目して、その地域の暮らしの特色や人々の工夫を考えることである。学習の過程で得た気付きや考えたことは、ギガタブのSKYMENU「発表ノート」に記録し、思考の可視化と共有を図りたい。「まとめる」過程では、これまでに調べた内容を基に、北海道の気候の特色とそれに対応する人々の工夫を整理する。そして、学習の成果として「北海道あったかガイド」を作成する。これは、「千葉市に住む友達がもし北海道に引っ越すことになったら」と仮定し、その友達が北海道での生活を安心して快適に過ごすためのアドバイスをまとめるものである。この活動を通じて、子供たちは自分たちの生活と北海道の生活との共通点や相違点を比較し、地域による生活の多様性に気付くと共に、自然と共に生きる人々の工夫や努力に目を向けることができるようになると思う。本単元の学習を通して、日本の自然環境と人々の暮らしの結び付きに対する理解を深めると共に、北海道の人々の生活の様子について多角的に考え、表現する力の育成につなげていきたい。

3 知識の構造図



※②は予想を考えて学習計画を作る活動のため、具体的知識はなし。

4 単元の目標

我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで寒い土地の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにすると共に、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を理解している。	①国土の気候などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活について考え表現している。	① 国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

6 単元の指導計画（7時間扱い）

	時配	主な学習活動と内容	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○千葉市と札幌市の冬の写真を見て、その違いを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市ではたくさん雪が積もっている。 ・千葉市の冬も寒いけれど、札幌市の方がより寒そう。 ○千葉市と札幌市の雨温図を比べ、気付いたことを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市の年平均気温は約16℃で、8月の平均気温は26℃と暑く、1月の平均気温も5℃であり、冬でも0℃を下回らない。 ・札幌市の年平均気温は約9℃で、8月の平均気温は20℃と涼しく、1月の平均気温が-9℃であり、冬の寒さが厳しい。 ・札幌市は、冬の降水量も多い。雪が多いみたいだ。 ・札幌市で生活するのは大変そう。 ○日本で一番寒い街（北海道陸別町）の「しばれフェスティバル」の写真や動画を見て、疑問に思ったことや気付いたことを話し合い、単元の学習問題を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこんなに寒いのに活動できるのだろうか。 ・こんなに寒い場所でも、なぜ生活できるのだろうか。 	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「写真や雨温図に着目して、問いを見いだししているか」を評価する。
	単元の学習問題 北海道のような寒い土地でくらす人々は、どのような工夫や努力をして生活しているのだろうか。		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習問題に対する予想を考えて発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・寒さを対処するために家の作りを工夫しているのではないか。 ・涼しい気候を活用して、農業を行っているのではないか。 ・雪を生かしたお祭りで観光客を集めているのではないか。 ・北海道の独自の文化を生かして生活しているのではないか。 ○予想を「くらし」「産業」「行事」「文化」に分類して、学習計画を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の人々はどのような生活をしているのか調べる。 ・北海道の人々はどのような仕事をしているのか調べる。 ・北海道の人々はどのような行事を行っているのかを調べる。 ・北海道にはどのような文化があるのかを調べる。 	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「北海道の人々の生活について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	3	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道の住宅写真やイラストから、北海道の人々の生活の工夫について調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・屋根の傾きが急になっていて、雪が落ちやすくするための工夫がある。 	[知技①] 発表ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み

7 市教研社会科研究主題解明のための方策

共生社会の実現に向けて主体的に関わる生徒の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

<本年度主題解明のための方策>

研究内容 1 共生社会の実現に向けた単元・授業づくり

研究内容 2 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた単元・授業づくり

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容 2 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた単元・授業づくり

『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』のためのサポートマガジン『みるみる』（文部科学省, 2025）では、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けるために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要だと指摘している。主体的な学びとは、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることを指している。対話的な学びとは、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深めることを指している。深い学びとは、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることを指している。その「主体的・対話的で深い学び」を通じた資質・能力の育成を、多様な特性を有する全ての子供に実現できるようにしていく具体的な授業改善の視点が「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」であると示している。

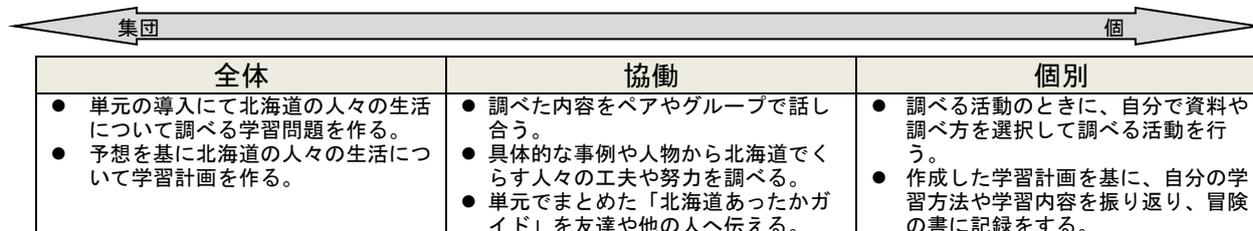
「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」（文部科学省, 2021）では、個別最適な学びを、指導の個別化と学習の個性化に整理している。指導の個性化とは、教師が支援の必要な子供により重点的に指導を行うことや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度などに応じ、指導方法・教材や学習時間などの柔軟な提供・設定を行うことであると示している。学習の個性化とは、子供の興味・関心に応じ教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することであると示している。それに対して、協働的な学びとは、子供同士・多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、持続可能な社会の作り手となることができるような資質・能力の育成をすることと定義している。文部科学省（2025）では、『個別最適な学び』は、教師が個別の指導を提供するといったことだけでなく、子供たちが主体的に学習を調整できる状況を教師が整えることで、子供自身がその実現を図っていくという視点も重要」であると指摘している。また、協働的な学びの実現には、「一人一人学ぶ場面とみんなで学ぶ場面は両方とも重要」であり、「一人一人学ぶ場面でも意図的に協働的な場面を設ける」ことや、「皆で学ぶ場面でも個々の学びが深まるような工夫を行う」ことも重要であると指摘している。

本単元では、子供たちが生活している千葉市と比較し、北海道のような寒い土地の自然環境とそれに適応した人々の生活について理解を深めることをねらいとしている。本単元の学習を通して、子供たちが住んでいる地域とは異なる地域の人々のくらしを理解することで、様々な地域で生活している人々への共感的理解を促し、共生社会の実現への素地を育む姿の育成を目指していく。本単元における共感的理解とは、寒い気候や積雪という厳しい自然環境の下でくらす人々の生活・産業・文化について、その人々の立場や視点に立って、その工夫や努力を理解することを指している。そのねらいを達成するために、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の視点で、

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」の手立てを立案する。

○「個別」「協働」「全体」の効果的な組み合わせによる単元構成の工夫

文部科学省（2025）によると、単元の目標を達成するための一人一人の異なる子供の学びの過程を見通して、全ての子供が単元の目標を達成できるよう、全体を指導する場面、協働が必要な場面、個別に学習を進める場면을効果的に組み合わせることで単元を設計することが指摘されている。そのため、本単元では、ねらいを達成するために、以下のように単元内での全体・協働・個別の場面を設定した。



○単元の学習を通じた「冒険の書」と「冒険の手引き」の活用

本単元では、「冒険の書」と「冒険の手引き」を活用することにより、個別最適な学びの実現を目指す。冒険の書は、単元の学習問題に対する予想、学習の見通し、調べたことの整理、まとめ、振り返り、自己評価といった一連の学習過程を1枚のシートに集約するワークシートである。これにより、自分の考えを可視化しながら学びを進めることができ、学習の進捗や理解の深まりを実感することができるだろう。また、1枚を完成させることによって、子供たちは達成感を得ることができ、自己効力感の向上にもつながると考える。さらに、冒険の手引きは、学習の途中で「どのように学習を進めればよいか」といった困難さやつまずきが生じた際に、子供が自ら活用できる学習支援ツールである。また、探究を深めたい子供に対しては発展的な資料の提供にもつながり、一人一人に応じた学びの機会を保障することができる。「冒険の手引き」は、本単元において子供の主体性や多角的な見方を育て、社会認識を形成する役割を果たすと考える。これらの手立てを通して、子供が自らの興味・関心に応じて学びを主体的に進め、理解を深めていく学習環境の構築を目指していく。

○具体的事例や人物を活用した教材提示の工夫と「発表ノート」を用いた学びの共有

本単元では、協働的な学びの視点として、北海道の具体的な事例や人物を活用した教材提示の工夫を行う。導入では、日本一寒い町として知られる北海道陸別町の「しばれフェスティバル」の映像資料を提示し、寒さを生かした地域の取組について気が付いたことを話し合う中で、子供の学習意欲を高めていく。さらに、調べる活動においては、北海道を代表する冬の行事である「さっぽろ雪まつり」の写真や映像資料を活用する。これにより、子供は寒さに適応する地域の工夫や努力について、具体的に捉えながら学びを深めることができる。また、雪まつりの運営に携わる方の話を聞く機会を設けることで、地域の人々の思いや活動に触れ、実感をもって理解を深めることができるだろう。さらに、SKYMENUの「発表ノート」のライブ提出箱機能を活用することで、子供が調べた内容を即時に共有し合い、互いの学びに触れながら新たな気付きを得る協働的な学びの環境を整える。こうした教材提示やICTの活用を通じて、子供が協働的に学びを深めていく授業づくりを目指していく。

○まとめる過程での「北海道あったかガイド」の作成

本単元における協働的な学びの視点として、これまでに調べた北海道の気候の特色と、それに対応する人々の工夫を整理し、学習の成果を「北海道あったかガイド」としてまとめる活動を位

置付ける。このガイドは、千葉市に住む友達が北海道に引っ越すことになったと仮定し、その友達が安心して快適に生活するためのアドバイスをまとめるものである。この活動を通して、子供はこれまでの学習内容をもとに思考を深め、北海道の人々の生活の工夫や努力について表現する力を養うことができるだろう。また、自分たちの生活との共通点や相違点を比較しながら、地域によって暮らし方が異なることや、自然環境と人間の生活との関わりについての理解を深めていくことができる。こうした活動を通じて、子供は日本の自然環境と人々の暮らしのつながりを多角的に捉え、相手意識をもって課題を解決していく力を高めていく。評価にあたっては、①北海道と千葉市の気候の違いを捉え、寒い土地の気候と生活・産業・文化の関わりへの理解が深まっているか②千葉市の友達への助言として、多角的な視点をもって具体的に表現できているかという2つの観点で評価する。

8 本時の指導（5／7）

①目標

北海道の人々が、雪を生かした観光業を工夫して行っていることに気づき、自然や歴史との関わりの中で人々の暮らしが成り立っていることを理解することができる。（知識及び技能）

②展開

学習活動と内容	○教師の指導・支援 ◆評価	資料
<p>(1) 千葉市の幕張ビーチフェスタと札幌市のさっぽろ雪まつりの写真と来場者数の違いに気づき、疑問に思ったことを基に本時の学習問題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> • どうして240万人も観光客が集まるのだろう。 • 多くの人が集まる「さっぽろ雪まつり」はどのようなお祭りなのだろう。 	<p>○学習計画を確認させ、単元全体の見通しを共有し、本時のめあてである北海道のお祭りや行事について調べることを意識付ける。</p> <p>○幕張ビーチフェスタ2024の写真と来場者数(30万人)、さっぽろ雪まつりの写真と来場者数(240万人)を提示し、来場者数の多さに着目させ、どのようなお祭りなのか問いをもたせる。</p>	<p>・「冒険の書」ワークシート</p> <p>・幕張ビーチフェスタの写真と来場者数</p> <p>・さっぽろ雪まつりの写真と来場者数</p>
<p>北海道で行われている「さっぽろ雪まつり」は、どのようなお祭りなのだろうか。</p>		
<p>(2) 学習問題に対する予想を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 北海道は冬の寒さが厳しく雪が多いので、雪を観光に生かしてお祭りを行っていると思う。 • ニュース番組で冬の時期に見たことがあるので、長い間行われているお祭りだと思う。 <p>(3) 「さっぽろ雪まつり」の写真や観光客数の変化のグラフを見て、どのようなお祭りや行事が行われているかを調べ、調べたことをSKYMENUの発表ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> • さっぽろ雪まつりには、毎年150万人以上の観光客が訪れている。 • 1950年から始まり、今では世界中からたくさんの観光客が訪れるイベントとなっている。 • たくさん降る雪を生かして雪まつりを行い、市民が楽しんだり観光客を増やしたりしている。 	<p>○既習事項や生活経験を想起させ、どのような行事が行われているか考えるように助言する。</p> <p>○予想を書くことが困難な子がいる場合、「北海道は冬に雪が多いので、どのようなお祭りができるか」と助言する。</p> <p>○見通しをもって調べる活動に取り組めるように、調べる資料や調べ方を示した学習の手引き（冒険の手引き）を適宜確認させる。</p> <p>○年毎の「さっぽろ雪まつり」の観光客数のグラフを提示し、年によって増減があり、コロナの影響もあるが、毎年多くの観光客数が増えていること、年々外国人観光客数が増えていることに気付かせる。</p> <p>○調べているときに、友達の発表ノートを参考にしたり、自分の学びと友達の学びを共有したりしやすくするため</p>	<p>・SKYMENU（発表ノート・ライブ提出箱）</p> <p>・さっぽろ雪まつり写真と説明文</p> <p>・さっぽろ雪まつりの観光客数グラフ</p> <p>・資料映像（さっぽろ</p>

<ul style="list-style-type: none"> • 高さ 10 メートルを超える大きな雪像がたくさん作られている。氷の彫刻も展示されている。作成するのがとても大変そうだ。 <p>(4) 札幌観光協会の O さん（さっぽろ雪まつりの担当者）の話を聞き、雪まつりに込められた思いを知り、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 雪まつりはもともと、捨てられた雪を利用しよう始めたお祭りがきっかけである。 • たくさんの観光客の人に来てもらい、雪まつりを楽しんでもらいたいという思いで、一生懸命準備している。 • さっぽろ雪まつりを通して、北海道の文化や魅力を伝えたいという思いがあり、70 年以上続けられていた。 <p>(5) 学習問題に対するまとめをし、振り返りを書く。</p>	<p>に、SKYMENU の発表ノートの「ライブ提出箱機能」を活用する。また、調べる途中で考えを共有する時間を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (3) で調べた内容の中に、携わる人々の思いや苦勞についての気付きがあったとき、それを確かめるための方法は何かを発問し、実際に取り組む人々に聞きたいという必要感をもたせる。 ○ インタビューを行う前に、どのようなことを聞きたいか子供たちに考えさせ、「なぜ雪まつりが行われているのか」「どのような思いで活動しているのか」など、質問内容を整理する。 ○ 札幌観光協会の O さんとのインタビュー活動の場を設け、寒い地域の特色を生かして町おこしを行っていることに気付かせる。 ○ 札幌観光協会の O さんと事前にインタビュー内容を打ち合わせておき、話の焦点が明確になるようにする。 ○ 話を聞いたあとの話合いでは、「自然条件を生かした工夫」に視点をもたせるように板書の工夫を行う。 	<p>雪まつり / NHK アーカイブス)</p> <ul style="list-style-type: none"> • インタビュー (Zoom) <p>• 冒険の書</p>
<p>北海道で行われている「さっぽろ雪まつり」は、たくさん降る雪を生かし、多くの観光客を集めている。また、北海道の文化を多くの人に伝えている。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> • 雪を観光に活用していることを知り、北海道の暮らしには自然や文化が深く関わっていると思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自然条件を生かした観光」という視点をもたせるため、子供たちの発表でまとめの言葉に使用できるキーワードを板書で明示する。 ○ 振り返りを書く際は、必要に応じて「冒険の書」やノートに書いた予想と照らし合わせるように促す。 ◆ 北海道では、自然を生かした観光業を工夫していることについて、具体的な事例に基づいて理解している。 (発表ノート・冒険の書 / 知識・技能) 	

9 板書計画

北海道で行われている「さっぽろ雪まつり」は、どのようなお祭りなのだろうか。		【考える】
幕張ビーチフェスタ 2024 の写真	さっぽろ雪まつりの 写真	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと、捨てられた雪を利用しよう始めたお祭りがきっかけである。 ・<u>たくさんの観光客の人</u>に来てもらい、雪まつりを楽しんでもらいたい。 ・<u>北海道の文化や魅力を伝えたい</u>という思いを持って活動している。
来場者数 (30 万人)	来場者数 (240 万人)	
【予想】		【まとめ】
<ul style="list-style-type: none"> ・雪を観光に生かしたお祭り ・長い間続けられているお祭り 		北海道で行われている「さっぽろ雪まつり」は、たくさん降る雪を生かし、多くの観光客を集めている。また、北海道の文化や魅力を多くの人に伝えている。
【調べる】		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年 <u>150 万人以上の観光客</u>が訪れる。 ・1950 年から始まる。・世界中から<u>たくさんの観光客</u> ・<u>たくさん降る雪を生かす</u> → 作るのが大変そう ・高さ 10 メートルを超える大きな雪像・氷の彫刻 		

11 参考文献等

- ・文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 社会編』日本文教出版
- ・文部科学省及び気象庁 (2025) 「日本の気候変動 2025」<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html> (2025. 5. 25 参照)
- ・文部科学省 (2025) 「『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』のためのサポートマガジン『みるみる』」<https://www.mext.go.jp/content/000356850.pdf> (2025. 5. 25 参照)
- ・文部科学省 (2021) 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt_kyoiku01-000013731_09.pdf (2025. 5. 25 参照)
- ・札幌市 (2024) 「令和 6 年度版 札幌の観光」<https://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/statistics/documents/sapporo-no-kanko-r6.pdf> (2025. 5. 25 参照)
- ・さっぽろ雪まつり実行委員会「さっぽろ雪まつり公式サイト」<https://www.snowfes.com/> (2025. 5. 25 参照)

どんなおまつり？

- さっぽろ雪まつりは、北海道札幌市で毎年 2 月に行われる冬のおまつりです。1950 年に始まり、今では世界中から 200 万人以上の人々が訪れる大きなイベントになっています。

どんなことが行われるの？

- **大雪像**：高さ 10 メートルを超える大きな雪像が登場します。建物やキャラクターなど、毎年テーマが変わります。
- **市民雪像**：地元の人たちが作った雪像も展示されます。ユニークなアイデアがいっぱいです。
- **国際雪像コンクール**：世界各国のチームが雪像づくりの技を競います。制作の様子も見ることができます。
- **氷彫刻コンクール**：すすきの会場で行われる、氷の彫刻の大会です。繊細で美しい作品が並びます。
- 北海道の伝統文化 (アイヌの人々の文化) の紹介
 - **アイヌ古式舞踊の発表**：大通会場では、アイヌ民族に伝わる伝統的な踊り「アイヌ古式舞踊」がステージで発表されます。これは国の重要無形民俗文化財にもなっています。

【参考】さっぽろ雪まつり公式サイト (<https://www.snowfes.com/>)



2021年・2022年はコロナのため会場での開催なし
【出典】令和6年度版 札幌の観光(札幌市,2024)